

# 目次

Red Book 2015 主な改訂点 ..... XXXIII

## Section 1

### 能動免疫と受動免疫

はじめに.....	1
ワクチンに関する情報源.....	3
患者および保護者とワクチンを語ること.....	7
ワクチンの安全性と効果に関する保護者の疑問の解決.....	9
予防接種に関する一般的な誤解と医学研究所の結論.....	10
保護者とのコミュニケーションを最適にするためのワクチンに関する情報源.....	12
保護者のワクチン拒否.....	12
能動免疫.....	13
ワクチンの成分.....	17
ワクチンの取り扱いと保存方法.....	20
ワクチン接種.....	26
接種部位の疼痛に対する処置.....	30
予防接種の計画.....	31
最低接種年齢とワクチン接種間の最短間隔.....	33
ワクチン製品の互換性.....	34
複数ワクチンの同時接種.....	35
混合ワクチン.....	36
受けそびれた予防接種.....	37
予防接種の記録が不明あるいは不確かである場合.....	38
ワクチンの接種量.....	38
最近ヒト免疫グロブリン製剤や他の血液製剤を投与された人の予防接種.....	38
ヒト型結核菌感染症の検査.....	40
記録の保存と予防接種情報システム.....	40
ワクチン不足.....	42
ワクチンの安全性.....	43
リスクと有害事象.....	43
予防接種後有害事象の医学的評価機関.....	44
ワクチン有害事象報告システム (VAERS) .....	46
ワクチン安全性データリンク・プロジェクト.....	49
臨床的な予防接種の安全性評価プロジェクト.....	50
ワクチン健康被害補償.....	51
ワクチン接種禁忌と接種要注意.....	52
予防接種後の過敏反応.....	54
即時型アレルギー反応.....	54
遅延型過敏反応.....	55
その他のワクチン反応.....	55
ワクチン予防可能疾患の報告.....	56

受動免疫	57
筋肉注射用ヒト免疫グロブリン	58
静注用ヒト免疫グロブリン	59
皮下注射用ヒト免疫グロブリン	64
特異的ヒト免疫グロブリン	64
動物由来の抗体（動物抗血清）	65
アナフィラキシー反応の治療	66
特定の臨床的状況における予防接種	68
早産児および低出生体重児に対する予防接種	68
妊娠中の予防接種	70
免疫不全状態の小児におけるワクチン接種	74
けいれん発作の既往歴あるいは家族歴を有する小児の予防接種	89
慢性疾患を有する小児の予防接種	89
アメリカインディアン／アラスカ原住民小児の予防接種	90
米国外に居住している小児の予防接種	93
思春期小児および大学在学集団の予防接種	94
医療従事者の予防接種	95
麻酔および外科手術を含む入院中の予防接種	98
米国外でワクチン接種を受けた、あるいは接種歴が不明または不確実な小児	98
海外旅行	101

## Section 2

### 特殊状況下における小児のケア

生物テロ	109
血液の安全：輸血由来感染の危険性の減少	112
血液分画製剤および血漿由来製剤	112
血液安全対策の現状	113
輸血後感染する病原体：既知の脅威あるいは潜在的な病原体	113
血液の安全性改善	122
母乳	125
母親と乳児への予防接種	126
母乳を介した病原体伝播	127
母乳中の抗菌薬	132
家庭外で保育される小児	132
保育サービスの分類	133
疾病の管理と予防	134
保育施設を休ませる基準	136
感染症－疫学と制御	137
一般的予防策	148
学校保健	152
予防接種で防げる病気	153
気道感染で伝播する感染症	155
直接接触で伝播する感染症	156
糞口感染で伝播する感染症	157
血液と体液を媒介して伝播する感染症	158

入院児の感染コントロールと予防	161
隔離予防策	161
医療ケア関連感染の予防戦略	170
職業上の健康管理	171
兄弟の面会	173
成人の面会	173
ペットの訪問	174
外来での感染コントロールと予防	175
思春期の人や小児の性感染	177
思春期の人の性感染	177
小児期 STIs の診断と治療	182
小児における性感染の社会的措置	183
性的犠牲と性感染	185
肝炎と矯正施設にいる若者	189
A型肝炎	190
B型肝炎	191
C型肝炎	192
国際間養子、難民および移民の小児における感染症の医学的評価	194
特別な病原体と健康状態の考慮	196
A型肝炎	196
B型肝炎とD型肝炎	196
C型肝炎	197
腸管病原体	197
梅毒	198
結核	198
ヒト免疫不全ウイルス感染	199
シャーガス病（アメリカトリパノソーマ症）	200
組織の寄生虫	200
他の感染症	201
地域に廃棄された針による傷害	201
傷のケアと破傷風予防	202
血液媒介病原体	202
針刺し事故予防	204
咬傷	205
ダニ媒介感染症の予防	210
蚊媒介感染症の予防	213
レクリエーション用水関連疾患の予防	216
動物から感染する疾患（人獣共通感染症）：伝統的でないペットを含む家庭内の ペットと公共の場での動物との接触	219

## Section 3

### 感染症ごとのまとめ

放線菌症（アクチノミセス症）	225
アデノウイルス感染症	226
アメーバ症	228
アメーバ性髄膜脳炎、角膜炎	231
炭疽	234

アルボウイルス	240
溶血性アルカノバクテリウム感染症	246
回虫症	247
アスペルギルス症	249
アストロウイルス感染症	252
バベシア症	253
セレウス感染症	255
細菌性陰症	256
<i>Bacteroides</i> および <i>Prevotella</i> 感染症	258
バラランチジウム症	260
アライグマ回虫症	260
<i>Blastocystis hominis</i> と他のサブタイプによる感染症	262
ブラストミセス症	263
ボカウイルス	264
ボレリア感染症	265
ブルセラ症	268
<i>Burkholderia</i> 感染症	270
カンピロバクター感染症	273
カンジダ症〔真菌症, 鷺口瘡〕	275
ネコひっかき病〔 <i>Bartonella henselae</i> 〕	280
軟性下疳	283
クラミジア感染症	284
肺炎クラミドフィラ	284
オウム病クラミドフィラ〔オウム病, ハト病, オウム熱〕	286
トラコーマクラミジア	288
クロストリジウム感染症	294
ボツリヌス中毒と乳児ボツリヌス中毒〔 <i>Clostridium botulinum</i> 〕	294
ガス壊疽〔Gas Gangrene〕	297
偽膜性大腸炎, 抗菌薬関連下痢症 ( <i>Clostridium difficile</i> )	298
ウェルシュ菌食中毒	301
コクシジオイデス症	302
コロナウイルス, SARS と MERS を含む	306
クリプトコッカス・ネオフォルマンズ感染症とクリプトコッカス・ガッティ 感染症〔Cryptococcosis〕	309
クリプトスポリジウム症	312
皮膚幼線虫移行症	315
サイクロスボラ感染症	316
サイトメガロウイルス感染症	317
デング熱	322
ジフテリア	325
エールリヒア, アナプラズマ感染症と類縁感染症〔ヒトエールリヒア症と アナプラズマ症ならびにその類縁疾患〕	329
エンテロウイルス (ポリオを除く)〔A群およびB群コクサッキーウイルス, エコーウイルス, エンテロウイルス〕	333
Epstein-Barr ウイルス感染症〔伝染性単核症〕	336
大腸菌を含むグラム陰性桿菌〔新生児敗血症および髄膜炎〕	340
大腸菌による消化管感染症〔溶血性尿毒症症候群を含む〕	343
真菌感染症	348

フソバクテリウム感染症〔レミエール病を含む〕	351
ランブル鞭毛虫感染症〔以前は, <i>Giardia lamblia</i> および <i>Giardia duodenalis</i> 〕	
Infections〔Giardiasis; ジアルジア症〕	353
淋菌感染症	356
鼠径部肉芽腫〔ドノヴァン症〕	367
インフルエンザ菌感染症	368
ハンタウイルス肺症候群	376
ヘリコバクターピロリ菌感染症	379
アレナウイルスによる出血熱	381
ブニヤウイルスによる出血熱および関連症候群	383
A型肝炎	391
B型肝炎	400
C型肝炎	423
D型肝炎	430
E型肝炎	431
単純ヘルペス	432
Histoplasma 症	445
鉤虫感染症〔 <i>Ancylostoma duodenale</i> と <i>Necator americanus</i> 〕	448
ヒトヘルペスウイルス 6 型〔突発性発疹を含む〕, 7 型	449
ヒトヘルペスウイルス 8 型	452
ヒト免疫不全ウイルス感染症	453
インフルエンザ	476
イソスポーラ症 (シストイソスポーラ症と最近では呼ばれる)	493
川崎病	494
<i>Kingella kingae</i> 感染症	500
レジオネラ感染症	501
リーシュマニア症	503
ハンセン病	506
レプトスピラ症	510
リステリア感染症	513
ライム病〔Lyme Borreliosis, <i>Borrelia burgdorferi</i> Infection〕	516
リンパ性フィラリア症〔バンクロフト糸状虫症, マレー糸状虫症, チモール糸状虫症〕	525
リンパ球性脈絡膜髄膜炎	527
マラリア	528
麻疹	535
髄膜炎菌感染症	547
ヒトメタニューモウイルス	558
ミクロスポリア感染症〔ミクロスポリア症〕	560
伝染性軟属腫〔みずいぼ〕	561
モラキセラ・カタラーリス感染症	563
ムンプス	564
肺炎マイコプラズマと他のマイコプラズマ感染症	568
ノカルジア症	571
ノロウイルスと他のヒトカリシウイルス感染症	573
オンコセルカ症・回旋糸状虫症〔River Blindness/ 河川失明症〕	575
ヒトパピローマウイルス	576
パラコクシジオイデス症〔南アメリカ分芽菌症〕	583

肺吸虫症〔肺ジストマ症〕	584
パラインフルエンザウイルス感染症	586
寄生虫疾患	588
ヒトバレコウイルス感染症	592
バルボウイルス B19 感染症・伝染性紅斑〔リンゴ病, 第 5 病〕	593
バズツレラ症	596
アタマジラミ	597
コロモジラミ	601
ケジラミ	602
骨盤内炎症性疾患	603
百日咳	608
蟯虫感染〔 <i>Enterobius vermicularis</i> 〕	621
癬風〔 <i>Tinea Versicolor</i> 〕	622
ベスト	624
肺炎球菌感染症	626
<i>Pneumocystis Jirovecii</i> 感染症	638
ポリオウイルス感染症	644
ポリオーマウイルス属〔BK ウイルスと JC ウイルス〕	650
プリオン病・伝達性海綿状脳症	653
Q 熱〔 <i>Coxiella burnetii</i> 感染症〕	656
狂犬病	658
鼠咬症	666
RS ウイルス	667
ライノウイルス感染症	676
リケッチア症	677
リケッチア痘	680
ロッキー山紅斑熱	682
ロタウイルス感染症	684
風疹	688
サルモネラ感染症	695
疥癬	702
住血吸虫症	704
赤痢菌感染症	706
天然痘〔痘瘡〕	709
スポロトリクム症	712
ブドウ球菌性食中毒	714
ブドウ球菌感染症	715
A 群レンサ球菌感染症	732
B 群レンサ球菌感染症	745
A 群, B 群以外のレンサ球菌と腸球菌感染症	750
糞線虫症〔 <i>Strongyloides stercoralis</i> 〕	754
梅毒	755
条虫症〔条虫症と囊虫症〕	768
その他の条虫症〔包虫症を含む〕	771
破傷風〔(破傷風による) 開口障害〕	773

頭部白癬〔しらくも〕	778
体部白癬〔ぜにたむし〕	781
股部白癬〔いんきんたむし〕	783
足白癬と爪白癬〔水虫〕	784
トキソカラ症〔内臓幼虫移行症，眼球幼虫移行症〕	786
トキソプラズマ症	787
旋毛虫症〔 <i>Trichinella spiralis</i> 感染症〕	796
陰トリコモナス感染症〔トリコモナス症〕	798
鞭毛虫症〔鞭毛虫感染症〕	800
アフリカトリパノソーマ症〔アフリカ睡眠病〕	801
アメリカトリパノソーマ症〔シャーガス病〕	803
結核	805
非結核性抗酸菌感染症〔非定型抗酸菌，結核菌以外の抗酸菌〕	831
野兔病	839
発疹チフス〔発疹熱〕	841
流行性発疹チフス〔シラミ媒介性あるいは森林性発疹チフス〕	843
ウレアプラズマ感染症	845
水痘一帯状疱疹ウイルス感染症	846
ビブリオ感染症	860
コレラ〔コレラ菌〕	860
その他のビブリオ感染症	863
ウエストナイルウイルス	865
エンテロコリチカ菌と偽結核菌感染〔腸炎およびその他の疾患〕	868

## Section 4

### 抗菌薬および抗菌薬療法

はじめに	871
キノロン系薬	872
テトラサイクリン系薬	873
その他の抗菌薬	873
抗菌薬管理：抗菌薬の適正使用	874
耐性菌	874
耐性菌の出現因子	874
耐性菌の脅威	875
抗菌薬耐性を防止あるいは遅らせる活動	876
抗菌薬管理	876
小児科医の役割	877
上気道炎における適正使用の原則	878
薬物相互作用	880
抗菌薬の投与量（表）	881
性感染	896

全身性真菌感染症における抗真菌薬	905
ポリエン系薬	905
ピリミジン系薬	906
アゾール系薬	906
エキノカンディン系薬	908
非経口および経口抗真菌薬の投与量指針	909
表在性真菌症の局所治療薬	913
非 HIV 抗ウイルス薬	919
寄生虫感染に対する薬剤	927
MedWatch—FDA の安全性情報提供と有害事象報告のプログラム	957

## Section 5

### 抗菌薬予防投与

抗菌薬予防投与	959
感染リスクの高い部位	960
特定の病原微生物への曝露	961
小児の術後患者における抗菌薬予防投与	961
適正使用のガイドライン	962
予防投与の適応	962
手術部位感染の分類と判定基準	964
術後感染予防のための抗菌薬を投与するタイミング	964
抗菌薬の投与量及び投与期間	965
術前スクリーニングと除菌	965
予防投与に推奨される抗菌薬	965
感染性心内膜炎の予防	970
新生児眼炎の予防	972
淋菌性眼炎	972
クラミジア性眼炎	973
非淋菌性・非クラミジア性眼炎	974
新生児眼炎の予防処置の実際	974

## 付録

I 関連する機構の連絡先 (Directory of Resources)	975
II 小児用ワクチン/トキシイドおよび免疫グロブリンのコード	980
III 小児期ワクチン接種後の有害事象における報告基準と補償基準	987
IV 米国内で届出が必要な疾患	992
V 予防接種の禁忌および注意についてのガイド 2015	994
VI 汚染された可能性を持つ食品からの疾病予防	1004
VII 食物由来疾患に伴う臨床症状	1008
VIII 動物によって媒介される疾患 (人獣共通感染症)	1014